

### 第3回ESD連続セミナー概要報告

- ◇ 平成28年6月23日(水) 19時～21時
- ◇ 奈良教育大学次世代教員養成センター2号館多目的ホール
- ◇ 参加者：西口(平城西小)、三木・山方(都跡小)、牛丸・垣内(伏見小)、池見(大宮小)、前田(興東小)、大西・池見(飛鳥小)、大田(富雄第三小中)、蔵前(真美ヶ丘第一小)、中村(済美南小)、中澤(平群北小)、島(郡山西小)  
杉田、横井、仲、西田、二階堂、黒木、後藤田、糸、北村、中澤 24名

#### ○ESDティーチャープログラム

学生と指導案作成指導教員の組み合わせ

糸・中村(済美南)、二階堂・山方(都跡)、横井・西口(平城西)、後藤田・大西(飛鳥)  
堀口・石田(済美)、黒木・池見(大宮)、杉田・河野(富雄第三)・中澤(平群北)、仲・三木(都跡)

#### 1. 持続可能な発展のための教育(ESD)の世界的潮流：木曾功

##### 第1章グローバル・エシックスへの扉を開く(中村先生)

###### (1) はじめに

- ・ ESDは非常にポテンシャルのあるコンセプトである

###### (2) 何を持続可能にするか

- ・ 広い意味での持続可能な社会への転換 人間が自然環境との関係をどう考えるか
- ・ すでに学校でかなり実施されている

###### (3) 持続的な社会への気づき

- ・ 人口爆発の警鐘はあるが、途上国(経済成長)と先進国(環境)の対立 → ESDが生まれた

###### (4) 停滞を経て次の10年へ

- ・ ボン会議までほぼ成果はなかった。リオ+20では、ESDの継続が採択

###### (5) 生きる力への活用

- ・ ESDの本質とは グローバルに通用する学力と倫理観の養成
- ・ 日本人の苦手 クリティカル・シンキング プレゼンテーション力
- ・ このような力の育成は「生きる力」につながる(自律的に行動する能力・人間形成力)

###### (6) ESDとユネスコスクール：ユネスコ・ユネスコスクール・ユニブネット

###### (7) グローバル・エシックスへ

- ・ ESDは世界標準の倫理規定的な概念

#### 【協議】グローバル・エシックスの内容を考える

国や地域に関わりなく、大切だと認識されているものは何だろうか？

生命尊重、資源配分の平等、祖先・なかま等

OECDのデセコプロジェクトでは世界共通の価値観として、人権と持続可能な開発が示された  
また、国際標準の学力として、キー・コンピテンシーが示された。

- ・ 国際標準のエシックス：人権尊重と持続可能な開発
- ・ 国際標準の学力(能力)：キー・コンピテンシー



## 第2章 ESDをめぐる世界の動向と日本の今後への提言（島先生）

### （1）持続的な社会をつくる重要性の国民的レベルでの認識

- ①ローマクラブによる警鐘
- ②ブルントラント委員会によるESDの定義により明確に
- ③アジェンダ 21 に教育の重要性が盛り込まれた
- ④ESDの10年が始まった
- ⑤理念と実践が結びついていない
- ⑥ボン会議でESDの推進が見直された
- ⑦GAPの目標の明確化

万人に対する持続可能な発展の学習の機会を増やすこと  
教育・学習を強化していくこと

### ⑧2014年世界会議がESDの重要性を再確認する機会となった

### （2）学校教育におけるESDの推進について

- ①国民レベルでの認識の重要性
- ②学校での推進

21世紀のグローバルな学力をつける教育であることを実証する必要がある

### （3）ESDの推進のための具体的な提言

【協議】：ESDと21世紀のグローバルな学力との関係

「ESDをすると、学力がつくんですか？」に答える

- ・学ぼうとする主体性が育つ
- ・コミュニケーション力が身につく
- ・集団（チーム）で新しいものを生み出す力がつく
- ・自分も社会も幸せになるための学習です
- ・教師自身も基礎基本にこだわっているのではないか
- ・発信型の学習こそが基礎基本の定着につながる
- ・大学入学の改革・アクティブ・ラーニングの評価化



○保護者が考えている学力は、日本でのみ重要視される「日本型学力」であり、子どもたちに必要なのは、「国際標準の学力であり、エシックス」である。また保護者の重要視する「昭和の学力」であり、我々が考えなくてはいけないのは、30年後を生きる子どもたちに求められる21世紀型の学力である。昭和時代と21世紀の大きな違いは、グローバル化である。そこには2つの選択肢がある。一つは地球という閉じられた世界の限りある資源を奪い合う「競争世界」か、資源を共有し合う「共生世界」か、である。国境を超えた人々の協働による「共生社会」で生きていく子どもに必要な学力がESDである。

資料 グローバル・アクション・プログラム（抄訳）（垣内先生）

### GAPの目標

- ・万人に対する持続可能な発展の学習の機会を増やすこと
- ・教育の重要性、また学校教育だけでなくすべての分野で行動を起こして拡大していくこと

## 【協議】

### 5つの優先行動分野と具体的な行動

#### ① ESDに対する政策的支援

ESDを推進する政治家への投票  
メディアを利用した世論の形成・ボトムアップ  
子どもによる、地域、地方自治体への提案

#### ② ESDへの包括的取組

○長の理解を促進することが必要。学校の場合、校長先生の理解が重要なので、校長先生を対象とした研修が重要

#### ③ 教育者の育成 研修会

#### ④ 若者の参加の支援

若者による自主的研修会への支援（予算化）  
機会の創設：ユース・カンファレンス

#### ⑤ 地域コミュニティ参加の促進

ESDの学習成果の地域への発信と、授業への地域住民の巻き込み

※次回のお知らせ： 7月26日（火）19時～21時 会場は次世代センター2号館  
学校間交流を見据えたICT研修 講師：小島源一郎（天理大学）  
学校紹介のムービーを作成しますので、各自20枚程度の写真をUSBに入れてご持参ください。

※次々回のお知らせ： 8月29日（月）19時～21時 次世代センター2号館  
宿題：本日お渡ししたテキスト：「持続可能性の教育の意義と展望」：佐藤学を読んで、本日お渡ししたレジュメに各自書いてきてください。それをもとに、グループディスカッションをします。

